

利尻島におけるオニハマダイコンの記録

小杉和樹¹⁾・佐藤雅彦²⁾

¹⁾ 〒 097-0401 北海道利尻郡利尻町杓形字富士見町 利尻島自然情報センター

²⁾ 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

Record of *Cakile edentula* from Rishiri Island, Northern Hokkaido

Kazuki Kosugi¹⁾ and Masahiko SATO²⁾

¹⁾ Informative Center for Natural Environment of Rishiri, Fujimi-cho, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

²⁾ Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

Abstract. An alien plant, *Cakile edentula*, was newly recorded from Rishiri Island, northern Hokkaido. This plant occupied almost 2800 m² on sandy beach at Numaura, southern Rishiri Island, and 170 kg of them were removed between July and October 2009.

オニハマダイコンはアブラナ科の北アメリカ北東部原産の外来種で、これまで利尻島では記録がなかった種である。筆者らは2009年7月5日に利尻島南部の沼浦海岸でオニハマダイコンを確認したので報告する。

オニハマダイコンを確認したのは、沼浦海岸の東側にある防波護岸が切れ、町道から砂地がスロープ状になって海岸に到達することのできる途中の砂地で(図1)、テンキグサ、コウボウムギ、ハマボウフ、ハマヒルガオ、オカヒジキ、ハマニガナ、ハマアカザ等の中にオニハマダイコンが混在し、一部は開花していた(図2)。

その後、2009年7月18日に分布域をあらためて確認したところ、波打ち際から4mほど陸地側から防波護岸まで砂地及び防波護岸の割れ目などに連続した群落を形成し(図3)、その面積は2832m²であった。また、一部は防波護岸を超えて内陸側にも分布を拡大していた。

日本国内においてオニハマダイコンが初めて記録されたのは、1982年新潟県村上市である(中井, 2003)。北海道においては、1995年7月30日に

日高地方で初めて確認されると、胆振地方、1997年には桧山地方、1999年には網走地方と分布が拡大し(五十嵐, 2001)、現在では北海道一円に点在しながら分布を拡大している(五十嵐, 2007)。利尻島への定着は、高さが50cm以上になった株立ちのものも相当数あったことから、2008年以前であったと推測される。なお、礼文島では2005年に船泊地区の砂浜で確認され(宮本, 2007)、現在礼文島の北部で分布を拡大している。

オニハマダイコンは、北海道の外来種リスト(北海道, 2004)で、地域固有の生物相や生態系に脅威となる警戒度のカテゴリーが最上位のAとなっている。また、オニハマダイコンの分布拡大は、種子が海流によって運ばれることによると考えられ、一度定着して種子を散布させると、次々と近隣の海岸砂丘に広がっていくことが予測される。利尻島の海岸線は溶岩流による岩場が多く、砂浜が形成されている環境は沼浦地区以外には北部の本泊地区に小規模なものが見られるのみで、利尻島内における海岸砂丘性の植物群落は極めて限られた環境となっている。

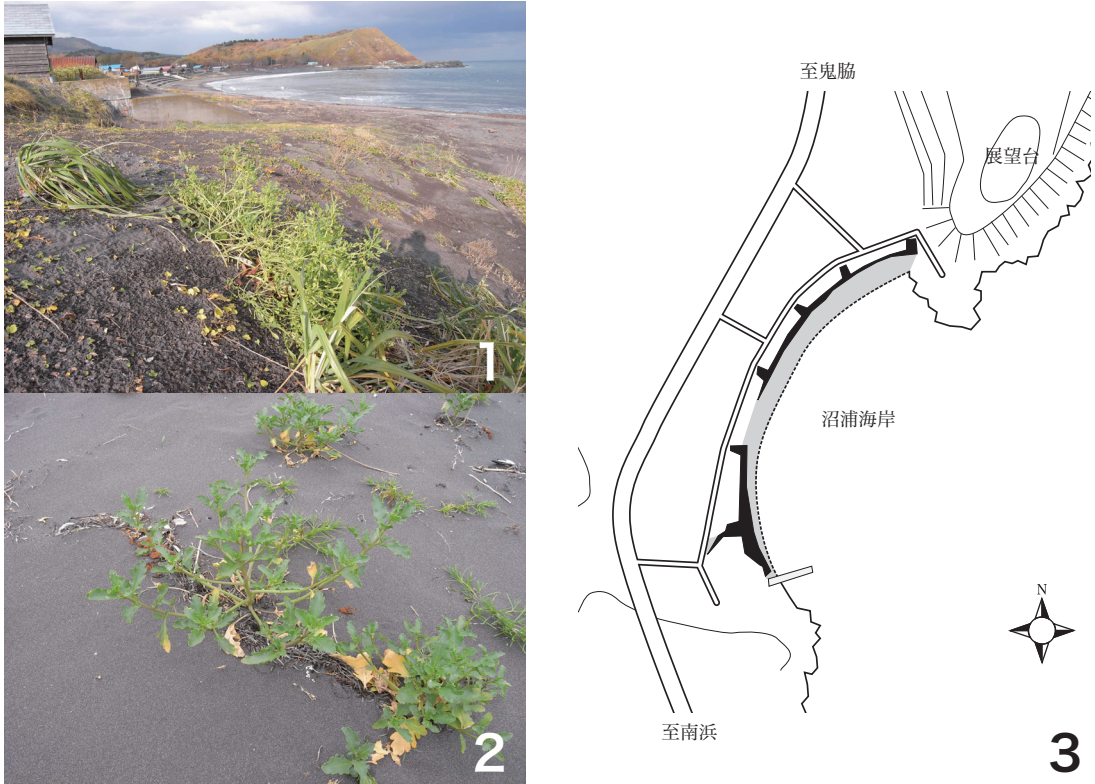


図1-3. 利尻島鬼脇沼浦地区のオニハマダイコン。1；分布地概況，2；生息環境，3；分布図（沼浦地区の砂浜海岸は灰色部と黒色部から形成される。オニハマダイコンの分布は黒色部で示した。）。

こうしたことから、沼浦海岸の砂丘植生保全と利尻島内における分布拡大を防止するため、オニハマダイコンの駆除を7月18日から10月末まで断続的に行い、170kgを除去した。しかし、全ての除去とはならず、次年度以降は結実前までに現在の定着個体を全て除去し、その後これまで散布された種子の実生個体の発芽を確認した都度除去する体制で望みたい。なお、同様の海岸砂丘を有する本泊地区の定期的な巡視が必要である。

謝辞

駆除にご協力いただいた有櫛まゆみさん、西島 徹さん、岡田伸也さん、佐藤里恵さんに心から感謝を表

する。

参考文献

- 北海道, 2004. 北海道の外来種リスト(北海道ブルーリスト2004). 北海道環境生活部. 札幌.
- 五十嵐 博, 2001. 北海道帰化植物便覧. 40p. 北海道野生植物研究所. 札幌.
- 五十嵐 博, 2007. 北海道野生植物研究報告. Vol.10:1. 北海道野生植物研究所. 千歳.
- 中井秀樹, 2003. アブラナ科. 清水建美(編), 日本の帰化植物: 80. 平凡社. 東京.
- 宮本誠一郎, 2007. 礼文島の外来植物2007. レブングル自然館. 自刊.